

【専門分野】

科目名	在宅療養を支える看護Ⅳ (看護技術)	講 師 名	専任教員 (7) 非常勤講師 (8)	学 年	2	履 修 期	第2学期
単 位	1単位						
時間数	15時間						
講師実務経験	専任教員：看護師としての臨床経験、看護管理者としての実務経験あり。						
授業概要	在宅で療養する対象の日常生活行動をアセスメントする能力を養い、対象に応じた援助技術を学ぶ。在宅看護に必要な指導技術の理解を深める。						
授業科目目標	1. 在宅療養者に対する援助について理解できる。 2. 在宅における日常生活援助や医療的管理のための特殊技術が理解できる。						
授業計画	<p>1回：訪問看護技術</p> <p>1) 家庭訪問・初回訪問</p> <p>2) 訪問マナーの実際</p> <p>2～3回：日常生活を支える在宅看護技術</p> <p>1) 食生活（食事支援・食事介助）</p> <p>2) 排泄介助（排便を促す援助・摘便）</p> <p>3) 清潔介助（入浴介助）</p> <p>4～7回：在宅看護に必要な特殊技術</p> <p>1) 在宅人工呼吸療法（HMV）と排痰法</p> <p>2) 在宅酸素療法（HOT）</p> <p>3) 在宅中心静脈栄養法（HPN）</p> <p>4) 在宅経管栄養法 経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）後の在宅での管理</p> <p>8回：終了試験</p>					<p>講義 演習 グループワーク</p> <p>講義 演習 グループワーク</p> <p>講義</p>	
評価方法	筆記試験						
テキスト	1. 系統看護学講座 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践, 医学書院. 2. 角田直枝：よくわかる在宅看護 改訂第2版, 学研.						
学生へのメッセージ	<p>既習の基礎看護技術、老年看護技術を活かし、さらに在宅で特に必要とされる看護技術を学びます。</p> <p>在宅で看護を提供していく流れを知ったうえで、療養者のQOLが向上するよう利用できるサービスを活用して問題解決ができるようになることを望みます。</p> <p>【関連科目】人間関係論、臨床治療論、共通基本技術Ⅰ、生活援助技術Ⅱ・Ⅲ、診療関連援助技術Ⅰ、臨床看護総論、在宅療養を支える看護Ⅰ・Ⅱ、老年看護技術論</p>						